



大巻伸嗣プロジェクト 世界のつくりかた・1

5/24・25 美濃加茂市民ミュージアム

岐阜県出身のアーティスト・大巻伸嗣の滞在制作が始まりました。参加者と共に「世界」を考え、自然現象や生物や文明などを描き重ね、巨大平面を制作します。

「制作者、一人一人がこの「世界」の創造主である。描くという行為による演劇である。」作家は熱を帯びた口調で語り始めました。人間はこれまで宇宙の現象、生物の歴史、自然科学の側面から世界についての分析を重ね、時には創造神話という物語を記してきました。しかし今回はそのような説に囚われず、自分たちが考える「世界」の変転を表現することを目指すのです。

もう一つ大切なことは、抑制されたエネルギーを解放することです。ペンや色鉛筆で画用紙を塗りつぶす行為は、描くことだけに没頭する身体をつくるための準備運動です。そして森の中に立てた12枚の板に、手を使って描き重ねるアクションを繰り返しました。

3.6×11.8mの巨大平面は今回の「世界」のための舞台です。宇宙の始まり＝火山、大きなエネルギー、針先の一点、静寂、中心、黒…湧き上がるイメージを表現する手法を考え、制作者はそれぞれ役割を担います。

画面の中央に黒い滴りが流れ落ちた瞬間、「世界」は始まりました。細かな黒点、転がる玉の跡。手と足で押し広げられた宇宙の闇が舞台を覆い尽くしました。

